

## 企業広報大賞

### <選考基準>

社会（マスコミ、消費者、投資家など）から期待され求められているものを見極め、それを経営に反映させるとともにステークホルダーに対し、広告宣伝だけではなく広報活動を通じて企業活動の的確な情報を発信・伝達し、社会に貢献している企業

### 受賞企業：オムロン株式会社

#### 【受賞理由】

「企業の公器性」を重視した企業理念の社員への徹底とその実現に努めている。障がい者が働く福祉工場「オムロン太陽」をはじめ、CSR活動を数多く展開するとともに、そうした活動をまとめた統合報告書は、他企業のモデルとされている。情報開示に積極的に取り組み、ステークホルダーとのコミュニケーションにも熱心に取り組んでいる。

## 企業広報経営者賞

### <選考基準>

経営トップ自らが広報の重要性を認識し、社内外の情報によく耳を傾け、経営環境や経営方針などについて、社会（マスコミ、消費者、投資家など）や従業員に語り、コミュニケーションを積極的に推進している経営者

受賞者：<sup>ニトリ</sup> 似鳥 <sup>アキオ</sup> 昭雄 株式会社ニトリホールディングス 代表取締役会長兼CEO

#### 【受賞理由】

トップ自ら積極的に情報発信を行っている。自身の事業への思いや会社の歴史、商品等についてテレビ番組や新聞、雑誌に数多く登場し、柔らかな語り口で、自らの言葉をもって説明している。その結果、会社の認知度を高め、会社および商品の信頼を向上させている。また、地方創生にも貢献している。

受賞者：<sup>ヨシダ</sup> 吉田 <sup>タダヒロ</sup> 忠裕 YKK株式会社 代表取締役会長CEO

#### 【受賞理由】

非上場企業でありながら、情報開示に積極的な姿勢を見せている。経営トップとして自ら、社会との対話を重視した経営を展開している。海外で現地に根ざした事業を行いその国・地域の活性化に努めている。国内においても本社機能を一部地方に移し、その地域と一体となって環境等に配慮した「まちづくり」を促進し、ブランドイメージを高めている。

## 選考委員会特別賞

受賞者：<sup>デグチ</sup> 出口 <sup>ハルアキ</sup> 治明 ライフネット生命保険株式会社 創業者

#### 【受賞理由】

自社だけでなく業界全体について長年に亘り、幅広い情報発信を行ってきた。数多くの出版や講演を通じ、若い人たちとの対話も熱心に行っている。それに加え、最新のネットメディアやSNSの活用などでもツーウェイコミュニケーションを実践している。

## 企業広報功労・奨励賞

### <選考基準>

広報活動に携わり企業広報の発展に功労が大きく、奨励に値する独創的な企業広報を実践している広報実務者およびチーム

受賞者：<sup>ウスイ</sup>白井 <sup>カズキ</sup>一起 キックマン株式会社  
執行役員 コーポレートコミュニケーション部長

#### 【受賞理由】

20年以上に亘って、広報業務に携わり、同社における「広報」の地位をより高める努力をした。グローバルコミュニケーションにも注力した。「食」をテーマとする広報にも力を入れ、同社の認知度を高め、確固たるブランドの素地を築き上げた。長年の広報経験を活かし、広報活動を様々な角度から分析し体系化し、後継者育成にも努めている。

受賞者：<sup>ヤマザキ</sup>山崎 <sup>マコト</sup>真人 旭化成株式会社 購買・物流統括部長

#### 【受賞理由】

2017年3月までの15年間、誠実な広報活動を首尾一貫して行ってきた。自社に不都合な際に企業の真価が問われるが、その際にも、社外の目から逃げることなく、適切かつ迅速な情報提供を粘り強く継続した。また、社会の声も聴取しフィードバックすることにも努めた。

### 選考委員

(敬称略・五十音順)

#### 【委員長】

一橋大学 大学院商学研究科特任教授 商学博士

伊藤 邦雄

#### 【委員】

読売新聞東京本社 編集局次長兼経済部長

天野 真志

イー・ウーマン 代表取締役社長

佐々木 かをり

毎日新聞東京本社 経済部長

塚田 健太

東洋経済新報社 『週刊東洋経済』編集長

西村 豪太

ダイヤモンド社 『週刊ダイヤモンド』編集長

深澤 献

シンクタンク・ソフィアバンク 代表

藤沢 久美

朝日新聞東京本社 経済部長

丸石 伸一

日本経済新聞東京本社 経済部長

吉田 ありさ

以上